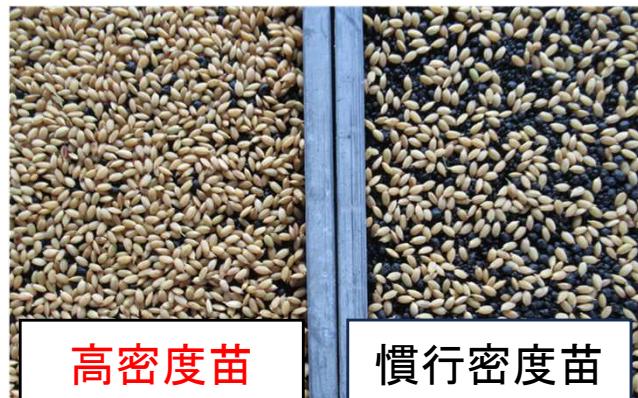


「星空舞」においても他の品種と同様に高密度苗移植栽培を行うことができます

【高密度苗移植栽培とは】

苗箱に通常より多くの種もみを播いて育苗し、田植機の掻き取り量を減らすことで田植で使う苗箱数を減らし、コスト低減を可能とする栽培方法です



高密度苗移植栽培を慣行密度苗栽培と比べると

① 移植時の苗は、慣行密度苗と比べて葉齢が小さく、葉色は淡く、苗乾物重が軽い傾向となりました

表1. 移植時の苗の比較

区名	葉齢	苗丈(cm)	葉色(SPAD)	苗乾物重(mg/本)
高密度苗	3.0	12.4	25.8	10.6
慣行密度苗	3.1	12.0	28.1	14.3
	**	n.s.	**	-

注1) 調査日は5月20日(播種18日後)。

2) 葉齢は不完全葉を含む。

3) 検定により**: 1%水準で有意差が有ることを、n.s.は無いことを示す。
-は未検定。

② 移植で使う苗箱数は、慣行密度苗移植の約半分になりました

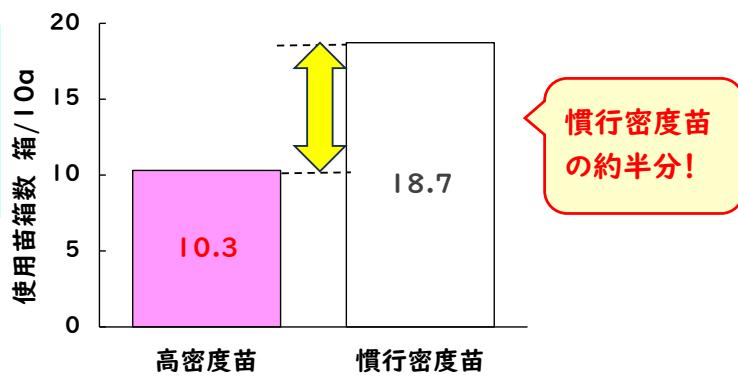


図1. 使用苗箱数の比較

③ 生育ステージは、ほぼ同じでした

表2. 生育ステージの比較

区名	最高分けつ期	幼穂形成期	出穂期	成熟期
高密度苗	7月5日	7月16日	8月6日	9月8日
慣行密度苗	7月4日	7月15日	8月5日	9月9日

④ 茎数、穂数は慣行密度苗と比べてやや多い傾向でした

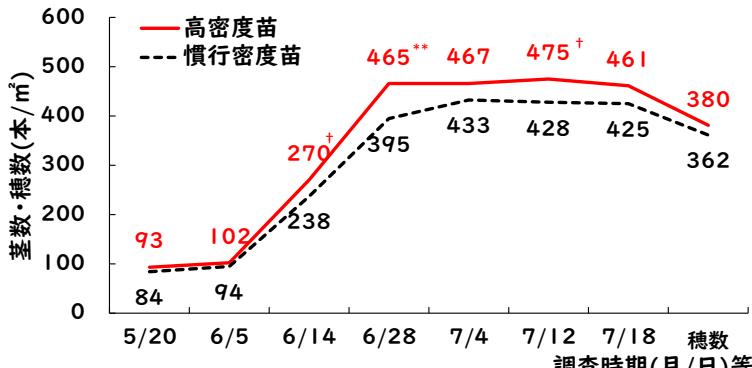


図2. 茎数、穂数の比較

注) 図中の記号は、†検定により†: 10%、**: 1%水準で差があることを示し、有意差無は無表示。

⑤ 草丈、葉色等は慣行密度苗と同等でした

表3.草丈、葉色等の比較

区名	草丈(cm)								葉色(SPAD値)											
	+15日	+25日	+40日	+45日	最高分 げつ期	幼穗形 成期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	+15日	+25日	+40日	+45日	最高分 げつ期	幼穗形 成期	穗肥I 施用時	穗肥II 施用時	出穗 期	出穗 +10日	出穗 +20日	出穗 +30日
高密度苗	25	25	42	57	72	77	84	19.3	27.7	37.2	38.7	39.8	35.5	34.9	32.7	32.6	35.8	35.8	33.1	29.7
慣行密度苗	25	26	43	57	72	77	84	19.6	27.3	37.9	38.9	40.5	36.0	34.7	32.5	32.4	36.2	36.9	34.1	30.0
	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

注1)表中の+ 日は移植後日数を示す。

2)†検定により†:10%、*:5%、**:1%水準で有意差があることを、n.s.はないことを示す。

⑥ 収量、品質、食味関連項目は、慣行密度苗と同等でした

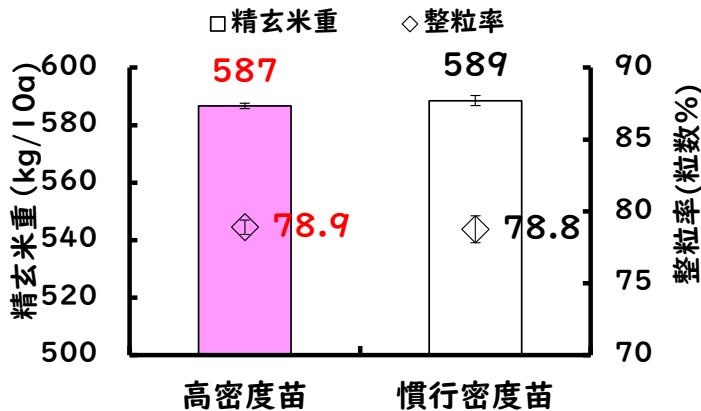


図3. 収量、整粒率の比較

注1)図中の垂線は標準誤差(n=8)

2)精玄米重は水分15%換算値。

3)整粒率はサタケ社製穀粒判別器RGQII 100Bを使用して計測。

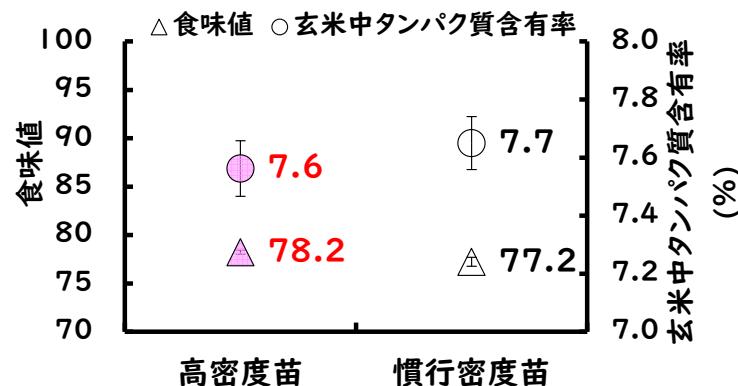


図4. 食味値、玄米タンパク質含有率の比較

注1)図中の垂線は標準誤差(n=8)

2)食味値及び玄米タンパク質含有率はサタケ社製食味計RCTA II Aを使用して測定。食味値は水分15%換算値、玄米タンパク質含有率はドライベース値を示す。

これらのことから、「星空舞」においても他の品種と同様に低コスト栽培法として高密度苗移植栽培を行うことができると考えられました。

【利用上の留意点】

- 本情報は、2024年に鳥取県農業試験場（細粒質普通低地水田土）で水稻「星空舞」を使って調査した結果です。
- 播種日は5月2日。高密度苗は乾糲280g/箱、慣行密度苗は乾糲140g/箱播種（床土2cm厚、覆土1cm厚）し、電熱育苗器で加温出芽（28°C、3日間）後、15日間露地置きして育苗した苗を使用しました。
- 田植日は5月20日。I社製高密度苗対応型ではない乗用田植機を使用し、横送り回数を24回（慣行密度苗：20回）、苗取量を最小（標準の3段下、慣行密度苗は標準の1段上）に設定し、栽植密度50~60株/坪で移植しました。
- 箱施用剤は、高密度播種に対応した薬剤を施用しました。

【お問い合わせ先】

鳥取県農業試験場 作物研究室

電話0857-53-0721